

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	映像リテラシーA2	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	笹本篤・金原聖		実務経験の有無・職種	有 映像制作全般	
学習目的					
この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、4K放送、5Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの撮影現場に必要な、色の知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。前期では主にテレビ放送技術・知識を学び、後期で行う現代の映像制作環境学習への橋渡しとなるように進める。					
到達目標					
この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）がどのように現在の形になったのかを知ること、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを理解することが目的となる。そして、放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか 自身がこういった分野に興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、教員は黒板に板書きし、学生にノートに書かせる。書くことで脳を働かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。				
注意点	ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。現在の放送（映像）業界のリアルタイムな状況も考慮して授業を展開するため、自身でも映像視聴環境を今一度見つめ直し、身近な物事として考えてほしい。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	80%	試験と課題を総合的に評価する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	後期授業内容告知と前期の復習		前期で学んだことを復習し、後期の学習準備をする		
2回	デジタル化で何が変わったか		テレビ放送デジタル化の本当の意味を理解する		
3回	テレビとそれ以外の映像媒体動向		定額動画配信とテレビ局の動きを理解する		
4回	放送業界の将来像		変わる放送業界の競争環境を理解する		
5回	映像信号について①		アナログ信号とデジタル信号を理解する		
6回	映像信号について②		SDI信号とIP伝送、次世代通信技術5Gを理解する		
7回	衛星放送と地上波放送		衛星放送 BS・CS、4K・8K放送の開始の知識を習得する		
8回	データ化した作業現場①		HD時代のオフライン、オンライン編集/テーブルスとファイルベースを理解する		
9回	データ化した作業現場②		HD時代の撮影現場、圧縮、コーデックを理解する		
10回	照明について①		映像に使われる照明の役割と光の作り方を理解する		
11回	照明について②		照明を扱う上での注意点や、人の心理に働く照明についての知識を習得する		
12回	データ化した作業現場③		HD時代の撮影現場 CM美術とヘアメイクを理解する		
13回	放送映画リテラシーA1・A2まとめ		前期と後期を通して、学んだこと、理解したことを整理する		
14回	放送映画リテラシーA1・A2まとめ		将来の映像業界、身近な映像がどのように変わっていくかを想像してみる		
15回	放送映画リテラシーA1・A2まとめ		全体のまとめをする		